KESTES通信

第３５号

2022年5月発行

はらんべえ・れお

【ごあいさつ】

2020年のCovid-19パンデミックにともなう隊員の一斉帰国以降、日本国内のメンバーによる遠隔での活動が主となっていましたが、2022年に入りケニア国内でのCovid-19の流行が収まっていること、隊員の派遣再開が進みケニア国内で活動する隊員の人数が増えてきたことから、再びケニア国内の隊員を主体とする体制の確立を進めています。人数が少なく、KESTESの活動にまだ不慣れな隊員ばかりなので、コロナ以前のような活動はまだ難しいかもしれませんが、引き続きご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。（2019-3・ティカ　加賀瀬　悠）

卒業生特集

Esther Nyabwari Okemwa（エスターさん）

2018年1月より支援
Kereri Girl's High School（キシイ郡）卒業

【メッセージ】
卒業までの間、学校に通うためのサポートを続けてくれたことに感謝しています。Covid-19の時にはケニアからいなくなってしまったけれど、日本からサポートを続けてくれたことにも感謝しています。大学進学（医学部）を希望しており、まずはKCSEの結果を待つ必要がありますが、KESTESが引き続きサポートしてくれないかと願っています。キシイを訪問してくれたりtermの振り返りを一緒にして励ましてくれたことをよく覚えています。とても嬉しかったです。KESTESの皆さん、サポーターのみなさんにとても感謝しています。
Asante sana.

エスターさん（中央右）と家族と村岡隊員

Keziah Muthoni Rugu
(ケジアさん)

卒業生特集

2018年1月より支援
Naivasha Girl's Secondary School (ナクル郡ナイヴァシャ)卒業

【メッセージ】
KESTES メンバーの皆様へ

私の教育に対する皆さんのお気づかいと寛大なご支援に感謝します。1年生から4年生まで、学費を理由に家に帰されたことは一度もありません。教科書、鉛筆、ペン、ゴム、ノート、電卓などの文房具を提供してくれました。また、女子である私の身の回りの品についてもです。KESTESの担当者さんは、眼科医になって地域社会に貢献するという夢を実現できるよう、学校まで訪れて私のモチベーションを高めてくれました。

KESTESメンバーの皆さんにお願いしたいのは、私はKCSEで良い点を取れると思っているので、大学でさらに教育を受けるためのサポートを続けてください、ということです。

神様があなた方、家族、職場、企業サポーターの皆様、JICAや日本政府を祝福してくださいますように。

あなたの幸せな女の子ケジアより。Asante, asante sana！！！！

ケジアさんとおじいさん。校門前にて

ケネディさん（中央）

卒業生特集

Kosgei Kennedy Kipkemoi（ケネディさん）

2018年5月より支援

Boito Boys High School(ボメット郡)卒業

【メッセージ】

お元気ですか？私たちは元気でやっています。高校に入学してから卒業するまで、長い道のりでした。KESTESの支援がなければ、私の高校での学習は不可能だったでしょう。高校の門さえも見ることができなかったのです。そして今、とうとう私は高校を卒業しました。KESTESの支援者の皆さまに感謝します。皆さまが祝福されますように。

アンさん、お母さんとKESTESメンバー

奨学生なう！

Ann Njeri Wambui（アンさん）

2020年1月より支援。Form3から4へ進級。

The Sacred Heart Girls Secondary School
（キアンブ郡リムル）

成績：前回C → 今回C

【メッセージ】

この4月で、3年生から4年生へ進級しました。学費や学校生活で必要な物の購入など、皆さんからのサポートにとても感謝しています。良い友人や家族に恵まれていて、支え励ましてもらっているので、一生懸命勉強できています。ご支援ありがとうございます。

奨学生なう！

Darline Joyce Ooko(ジョイスさん)

2020年1月より支援。Form3から4へ進級。
Nyamira Girl's High School （シアヤ郡ボンド）
成績：前回C+ → 今回C

【メッセージ】
KESTESの皆さん、お元気でしょうか？

私は、もっと良い成績を残せるようがんばっていますが、目標が達成できていないので、保護者やメンターなどみんなに心配されています。私も自分の成績に満足していません。目標にした成績を取れず、平均点以下になってしまったことを申し訳なく思っています。もっと良い成績を残せるように取り組んでいます。いつも応援してくれてありがとうございます。

奨学生なう！

Joshua Okoth Ouma（ジョシュアさん）

2019年1月より支援。Form3から4へ進級。
Orero Boy's High School（ホマベイ郡リグウェ）
成績：前回B- → 今回C+

【メッセージ】

KESTESの皆さん、お元気でお過ごしでしょうか。私は元気です。フォーム1から今に至るまで、皆さんのサポートがあったからこそ、私は学校で一生懸命に勉強し、こうしてあなたたちに手紙を書くことができます。
この3年間、私は自分の目標を達成するために努力してきました。今年は私の高校生活の最後の年ですが、これまで以上に一生懸命勉強することを約束します。これは私の最後のチャンスであり、無駄にはできません。
私は医学部合格という夢があり、それが私の成功への原動力となっています。自分の未来を築くために犠牲を払うべき時は今です。いい結果が出るよう、期待していてください。ご支援ありがとうございます。

奨学生なう！

Otieno Michael Oloo
（マイケルさん）

2019年5月より支援。Form3から4へ進級。
Barding Boys High School (シアヤ郡シアヤ)

成績：前回B+ → 今回B

【メッセージ】

忙しい中でも、苦手な語学などの対策に力を入れたり、自分の時間を作って勉強したり、わからないことは先生に相談するなどして、良い成績を維持するよう努めています。常に自分の目標を意識し、強い決意をもって勉強しています。

いつも私をサポートしてくれる家族や友人、そしてKESTESの皆さんに感謝しています。

国内イベント報告！

協力隊まつり2022に参加しました！

4月23日（土）、24日（日）に実施された、協力隊まつりに参加しました。今回の協力隊まつりは、実行委員会の皆様（ケニアOVの皆様もご活躍されています）のご尽力により、従来の市ヶ谷のみならず、JICA関西、JICA中国をも会場とした、3拠点同時実施型。加えてオンラインの各セミナーも盛況でした。KESTESでは、各拠点でKESTESグッズ、ケニアからのお土産に加え、帰国した村岡OVの配属先の子供たちが作成したブレスレットも販売しました。会場では多くの方が足を運んでくださり、KESTESや協力隊についてのお話をしながら展示やグッズを楽しんでいただきました。オンラインでは、活動中の木村隊員（2021年度1次隊・ビヒガ・コミュニティ開発）、加賀瀬隊員（2019年度3次隊・ティカ・環境教育）からのお話のほか、現在東京都大島で高校教員として活躍する菊池OVによる当時の活動や現在の仕事について、また、長崎在住の八尋OVとのライフプランに関する座談会など、各種企画で盛り上がりを見せました。他団体のブースでも、各々が素敵な活動紹介・グッズ販売をおこなっており、コロナ禍ながらたくさんの方が楽しめたお祭りだったのではと思います。また来年の協力隊まつりもどうぞお楽しみに！

文：ケニア日本窓口代表　黒田 篤槻（2017年度3次隊・エルドレット・青少年活動）

モヨ・チルドレンセンター訪問

2月13日に、キアンブ郡の隊員4名で、ティカのモヨ・チルドレン・センター（MCC）を訪問しました。

惜しくも今回の訪問の数日後に亡くなられた松下 照美さんによって創設された児童養護施設で、虐待やネグレクトなどで、家庭での養護を望めない子供たちに、生活の場を提供しています。

元KESTES奨学生で、MCCのスタッフとして勤務されているブライアンさんにもごあいさつすることができました。MCCとは引き続き、関係を維持していくつもりです。

KESTES は以下の企業サポーター様よりご支援を頂いています。いつもご支援ありがとうございます！

ETA Environmental Technology Africa CONSULT, INNOVATE, IMPLEMENT

Environmental Technology Africa (ETA) 様

http://eta.co.ke/

MAGNOLIA MINING

Magnolia Mining 様

http://magnolia-mining.com

Kenya Students' Educational Scholarship (KESTES)

- Website: http://www.kestes.org/
- お問い合わせ先: kesteskenya@gmail.com
- Facebook: https://www.facebook.com/jocvkestes

- 編集・発行：KESTES KENYA
- 文責：2019年度 3次隊　加賀瀬 悠（ティカ）

KENYA STUDENTS' EDUCATIONAL SCHOLARSHIP run by Japan Overseas Cooperation Agency